私のゼミ観「立ち止まって考える時間の大切さ」

働くことや働く環境について考える機会が今の自分にあるだろうか。残念ながら日々の仕事に追われていると、そのような機会はなかなか無いのが実情です。

昨年に引き続いて合同ゼミのお話をいただいた時、テーマとなる「終身雇用と雇用の流動化」を自分なりに考えてみました。振り返ると、この時が働くことと働く環境を考える初めての機会だったのです。申し遅れましたが、私は既に転職を経験しています。そこでテーマについては、前職と現職の人事制度の比較、自分自身の転職経験や周囲の動きから実感した雇用の流動化を念頭に考えをまとめました。その他に少しでも皆さんのお役に立てればと、仕事で得た情報を整理して合同ゼミに臨むことにしました。

合同ゼミでは３年生を担当し、司会を務めさせていただきました。３年生は前出のテーマをディベート形式で議論しました。司会をしながらですが、今回のテーマは就業経験の無い学生には実感が伴わないだけに難しいテーマだと感じました。特に人事労務はデータだけでは判断しづらい分野であり、実社会で働く人びとからのヒアリングやアンケート、加えて情報源の拡充が欠かせません。そのため、皆さんがテーマの核心へどこまで迫れるかが私の関心事でした。

ディベートの巧拙は別として、皆さんは手探り状態の中でよく勉強されていました。欲を言うと、もう少し論点を明確にできればより良い内容にまとめられたのではないでしょうか。合同ゼミを通じて学んだことは、これから自分たちが飛び込む「社会」というものを事前に理解する意味で重要であり、自身のキャリアを築いていく上でもこれほど参考になることはありません。さらに他大学との合同ゼミは言うなれば他流試合。このような機会に恵まれることは、社会人には無い学生の特権です。今回の貴重な経験を様々な場面でぜひ活かしてください。

最後になりますが、「ゼミ」とは自習自得の場だと考えます。また、先生から指導を受けることはもちろんですが、互いに学び合い、新たな気付きを得ることで自分自身を成長させる場でもあります。しかし、成長するためには、研ぎ澄まされた問題意識を持ち、あふれる情報の中から知りたいことを取捨選択し、その上で本質を見極める力が求められます。自分を成長させるためには、何の遠慮もいりません。力づくで学ぶ中で、進むべき道にたどり着かれることを期待しています。

企業研究会
木村　徳孝
（2000 年卒）